

群馬県立女子大学 FLRI Newsletter

Foreign Language Research Institute

外国語教育研究所だより

Vol.29 2016.10.31

グローバル人材育成事業「明石塾」



明石 康 塾長

8月6日、明石塾15期生(19名)の入塾式が本学で行われました。

明石 康 塾長式辞(抜粋)

明石塾の第15期生の入塾式を迎えることになり、大変嬉しく思っております。グローバル化の時代をどのように生きるべきか、世界中の人々が悩んでいると思います。特に日本では、ほぼ似た風俗習慣の中に生きているため、外から隔離された純粋培養になるというガラパゴス現象が起きています。そのため私達は視野が狭くなり、外に対する好奇心が弱くなっていると思います。アジアから欧米諸国への留学人数は、戦後まもなくの頃は日本が一番でしたが、今は中国、インド、韓国にも追い越されています。このような状況で日本が世界の国々と一緒になって活躍をし、世界に貢献できるだろうかと疑問を抱いています。グローバル化と同時に、アメリカ大統領選挙の現状やイギリスのヨーロッパ連合離脱のようにグローバル化に対する反発や抵抗も現れています。この矛盾する複雑な世界を我々はどのように生きていくのかを一緒に考え、勉強することは価値があると思います。英語を学び、コミュニケーション能力を身につけることも大事ですが、尊敬や畏敬の念を持って他国の文化を理解できることも大事です。何よりも大事なものは、みなさん一人一人のチャレンジ精神、やる気だと思います。難しいことでも何回もぶつかれば、分からなかったことが分かるようになることがよくあります。必ずしもすぐに分かるとは限りません。打てば響くという言葉がありますが、とにかく大きな鐘を繰り返し打ち続けることによって得ることがあると信じています。週末を利用して勉強や様々な活動が続けながら、この塾を7か月間 続けることはつらいかもしれませんが、みなさんの人生をより豊かにする上で必ず役に立つと私は確信しております。

学長祝辞、塾生代表決意表明

続く学長祝辞では、本学の濱口富士雄学長が「世界的に著名な明石塾長や国際的見識を持った講師の方々から講義を受け、また国内外のフィールドワークを経験することによって、国際的な視野と高い志を養い、国際舞台で堂々と発言、行動できる力を備えた人材になることを心がけて頂きたいと思います。」と述べました。式の最後には、塾生を代表して四ツ葉学園中等教育学校5年の水谷セザルサマラさんが「グローバル化によって私たちに求められているのは、問題の本質を見極める目と解決に向けてどう動くかを判断する力です。これらを身につけ、自分の可能性の範囲を広げて、世界に貢献できる人間になるという強い意志のもと、明石塾への参加を決意しました。私が明石塾で特に力を入れたいことは、コミュニケーション能力を高めることと様々な価値観を持つ素敵な仲間を作ることです。仲間と共に過ごす時間を通して、自己の良さを改めて認識し、他者の良さも発見したいです。」と決意を述べました。



濱口富士雄 学長



塾生代表あいさつをする
水谷セザルサマラさん

塾長講義（抜粋）

8月6日午後、最初に明石塾長からグローバル化の功罪について講義が行われました。
以下はその概要です。



グローバル化の時代における日本の対応は、他のアジア諸国より遅れていて、効果的ではありません。グローバル化の結果、経済的かつ社会的に敗者になった人たちの不安や不満が高まっています。特にアメリカでは勝者になった2%以下の人の所得は、社会の底辺にいる人の約1000倍から約10000倍であり、貧富の差が非常に激しいです。特に中産階級の人達はTPPという自由貿易により安い物資が輸入され、失業に追い込まれる可能性があります。つまり、グローバル化は利益ではなく、弊害をもたらしていることとなります。貧しかった国を豊かにし、開かれていなかった国を開放し、多くの人達の自由や人権を守るというプラス面がありますが、マイナス面を指摘する声も高まっています。したがって、プラス面とマイナス面のバランスシートを作って物事を考えることが重要です。

アメリカでは今年大統領選挙が行われます。共和党トランプ候補はアジア・ヨーロッパ諸国を援助するよりもアメリカ国民を助けることが先決であると主張しているため、政治的及び外交的に様々な問題が起きています。そういう状況を日本はどう考えるべきなのか、簡単に答えは見つかりませんが、単純化して白黒に分ける見方は危険です。日本も18歳から選挙権を得ることになり、若者もこうした社会、政治、外交上の問題について判断を迫られるので自分の勉強に没頭するだけではいけません。グローバル化の時代において、自分自身や自国の文化に対するアイデンティティをどのように維持するかも大きな問題です。したがって、他の文化に対する理解を深めると同時に自分を失わないこと、自国の文化をきちんと知ること、または生まれ育った群馬県についてもっと知識を広げることも大事です。これは矛盾することではありません。外国へ行っても、外国のことをどれだけわかるか疑問があります。しかし、外国と比較することによって自分のいい所もわかります。そのように自分の世界や見聞を広げることはとても大事だと思います。

講義の後半は、講義に関することや塾生が普段から抱えている疑問などについて、明石塾長と塾生の間で活発な質疑応答が行われました。以下はその一部です。

塾生からの質問：日本人としてどのように私達は自国の文化を見直すべきでしょうか。

明石塾長：日本食材の品質が世界で評価されているように、日本の良さやアイデンティティを外国人も認識するようになってきました。私はフランスの首都パリで日本料理店が街中にあるのを見て、日本文化の良さを認めるフランス人の心の広さを感じました。また、日本の仏教芸術をシラク元大統領は非常に高く評価していました。軍事力を持つ国をハードパワーと言いますが、日本はソフトパワーを持っていると思います。ハードパワーでは、アメリカ、ロシア、中国が世界的に優位ですが、ソフトパワーではノーベル賞を受賞した人数を基準にすると、日本は上位にあります。



塾生からの質問：リーダーに従って働くフォロワーの存在はどのように重要なのでしょうか。

明石塾長：強烈な個性とリーダーシップを兼ね備えた少数のリーダーの下に、様々なレベルのフォロワーが多数存在し、その中でさらに小さなリーダーが必要とされます。たくさんの人の協力、チームワークが重要です。私が26歳で国連に入って数か月後、ハンガリー動乱が起きました。国連総長は詳細な調査をして報告書を国連総会や安保理事会に提出するように命じられ、その報告書作成の仕事が我々の部局に与

えられました。十数か国からの異なる教育を受けた職員で構成された部局で、きちんとした報告書を作成できるのか疑わしかったのですが、一つの目的を与えられるとこの人たちは深夜を忘れ、週末もなく一生懸命に働き、世界中が賞賛する立派な報告書を2か月ほどで作成しました。チームワークによって異なる国籍の人が一つの目的の下に働くことができたのです。その報告書には様々な興味深い物の見方が反映され、統一的かつ論理的にまとめられました。国連とは一見ばらばらに見えますが、いざという時は団結できるのです。要するに仲間として自分と一緒に頑張れる人を探して仲良くなること、いざという時に協力する人を集めることが大事だと思います。

研修報告

明石塾では次のとおり研修を行いました。

日付	午前 10:00～12:30	午後 13:30～16:00
8月 8日(月)	英語研修1・2	講義② 「英語の発音を学ぶ-音声変化を中心に-」
8月 9日(火)	英語研修3・4	講義③「一緒にアジアの新興国を考えよう」
8月10日(水)	英語研修5・6	講義④「日本語の文字と表記」
8月11日(木)	英語研修7・8	講義⑤「俳句とHaiku」
8月12日(金)	英語研修9・10	講義⑥「上毛カルタで見直す群馬の姿」
8月13日(土)	英語研修11・12	講義⑦「美術史という学問」
8月22日(月)	県内フィールドワーク (サンデン・グローバルセンター)	
9月 3日(土)	英語研修13・14(公開授業)	夏休み研修まとめ、テーマ討論①
10月1日(土)	東京フィールドワーク(グローバルフェスタ、東京ジャーミイ)	



英語研修



東京フィールドワーク

大学高校英語教育連携事業

伊勢崎高校、沼田女子高校、高崎経済大学附属高校の各高校と連携した英語研修を主に本学を会場に実施しています。研究所の外国人研究員を講師に、年3回の研修を通し、思考力・表現力を磨き、論理的に英語で説得力のあるプレゼンテーションをする力の定着を目標にしています。高崎経済大学附属高校については、7月までに3回実施し、様々な言語活動を通して必要なスキルを身につけ、「塾に行くべきかどうか」、「制服を着るべきかどうか」など身近なテーマについてディベート形式でプレゼンテーションを行いました。また、6月に中央中等教育学校の「多文化理解実習」、7月に高崎女子高校の「グローバル・リーダー養成ワークショップ」において、研究員が生徒と英語でディスカッションを行いました。

高大連携英語教育事業についてのお問い合わせは研究所までご連絡ください。



中央中等教育学校



高崎経済大学附属高校



高崎女子高校



沼田女子高校



伊勢崎高校

県民英会話サロン「グローバルカフェ」

今年度第1期の「グローバルカフェ」は5月12日から7月28日まで毎週木曜日に高崎市総合福祉センターで計11回実施され、毎回約60人の県民の方が参加しました。映画、ファッション、旅行など毎回設定されたトピックについて幅広い年齢層の方々が自由に英会話を楽しみました。7月21日「カフェスペシャル」では、本学文学部英米文化学科の吉川かれんさんがオーストラリア留学時のホームステイ体験を発表しました。また群馬大学大学院生のレイチェル・リベロさんもゲストスピーカーとして参加し、フィリピンの生活や伝統について発表しました。

第2期「グローバルカフェ」を以下のとおり開催します。事前の予約は必要ありません。ご希望の方は開催日に直接会場までお越しください。

日時：10月6日(木)～12月15日(木)の毎週木曜日

(但し、11月3日は除く)

18時15分～19時45分(全10回)

場所：群馬県立女子大学 新館6F

参加費：無料



吉川かれんさん



レイチェル・リベロさん

留学支援事業

平成28年度群馬県観光親善学生大使委嘱状交付式

7月20日、本学の海外留学支援プログラムを利用し、長期及び短期で海外に留学する学生44名を対象に、群馬県観光親善学生大使委嘱状交付式が行われました。委嘱を受けた学生は、留学先の大学やホームステイ先などで、群馬県の実然、文化、産業など群馬県の魅力をPRすることにより、本県への観光客誘致や国際親善に貢献します。

濱口学長は、「相手のことを聞くと同時に自ら情報を発信し、相互理解を深めてもらう一手段として、観光親善大使として活躍してほしい」と激励しました。学生代表の国際コミュニケーション学部2年の仁科夏美さんは「世界遺産に登録されている富岡製糸場をはじめ、草津温泉、尾瀬の水芭蕉、榛名湖のホタルなど世界に誇れる群馬の伝統や自然の魅力を紹介し、世界と群馬の懸け橋になれるように尽力したい。」と述べました。



代表して委嘱状を受け取る仁科夏美さん

留学帰国報告

短期海外研修（語学留学） ミルナーインターナショナルカレッジオブイングリッシュ（オーストラリア）
文学部英米文化学科 T.N.



私は今回オーストラリアのパースにある語学学校に3週間通いました。授業は基本的に教科書に沿って進められ、分からないことがあればすぐに質問できる環境でした。また私のクラスではほぼ毎日プリントと日記の課題が出され、日記は先生が添削してくれました。私はなるべく様々な国籍の生徒と交流し、話すときは必然的に英語を使用したため、スピーキング力がつきました。同じクラスの生徒とはとても仲良くなり、放課後一緒にカンガルーを見に行ったりしました。この3週間で改めて大切だと思ったことは自発的に行動することです。見知らぬ土地で生活してみると、困った状況に出くわすことがあります。そこで問題を解決するには、道に迷ったときに現地の人に尋ねるなど何かしら行動を起こさなければなりません。この姿勢は学習面にも活かすことができ、学校ではただ授

業を聞いているだけでなく、自ら発言することで理解が深まると感じました。今回の経験でより学習のモチベーションが高まったので、来年は長期留学に挑戦したいです。

長期留学（交換留学） 高麗大学校（韓国）
国際コミュニケーション学部3年 I.M.

高麗大学は経営学部が有名で、ヨーロッパやアジアからの留学生だけで1000人以上いました。私はコシウォンという韓国独自のシェアハウスに住んでいました。住人のほとんどが外国人で、フランス、シンガポール、ウズベキスタンと様々な国から来た人でした。私が最も驚いたことは、宗教による文化の違いでした。インドネシア人やイェメン人のイスラム教の人達とすぐに仲良くなりましたが、イスラム教ではお酒や豚肉を食べないという決まりがあるため、一緒に食事をしてもらいが口にできない料理もありました。彼らはお酒を飲まないのに、なぜお酒の場に行くのが最初理解できませんでしたが、みんなと仲良くなるためにわざわざ出かけていることに気づきました。韓国ではお酒の場が予想以上に多く、私はなかなか出向かず、そのため交流を広げるのに苦労することも多かったのですが、彼らを見て感心しました。私は一年間の留学を通して、韓国の文化のみならず世界中の文化を学ぶことができました。



お知らせ

次の行事に参加を希望される方はメールにて群馬県立女子大学外国語教育研究所 (flri-one@pref.gunma.lg.jp) へお申し込みください。なお、詳細については本学ホームページをご覧ください。

○明石塾公開

以下の日程で明石塾を公開します。

日時：平成28年11月12日（土）午前の部10時～12時半、午後の部13時半～15時半

場所：群馬県立女子大学 新館 6階研修室

内容：午前▶英語研修

午後▶講義 講師：細貝 瑞希氏（明石塾3期生 独立行政法人国際協力機構（JICA））

演題：「世界をつなぐ一触媒としての役割とその仕事」

○英語教育講演会

県内の小学校、中学校、高等学校及び大学の先生方に対して、英語教育における小中高大の連携について、その方策を具体的に考え、模索する機会を設けるため、英語教育講演会を開催します。

日時：平成28年12月10日（土）13時～15時

場所：群馬県立女子大学 新館 6階研修室

講師：野田小枝子氏（津田塾大学大学院文学研究科英語教育研究コース 特任教授）

演題：「発信力を育てる小中高大連携を目指して一授業で変えていけること」

発行：群馬県立女子大学外国語教育研究所

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1

TEL：0270-65-8511(代) FAX：0270-65-9538 URL：http://www.gpwu.ac.jp/